



「大地性の復権」で市街地再生

建築士法が施行された1950年7月1日にちなむ「建築士の日」を記念して、日本建築士会連合会(近角眞一会長)は6月25日、同会会長の藤本昌也氏による特別講演会を開催した。人口減少や少子高齢化に直面する地方都市の市街地再生に際して、地域固有の歴史や風土を捉える独自の理念を紹介したほか、自身の経験を踏まえながら商業・住宅・空間デザインなどの多様な観点の課題を解決する方法論を提唱した。

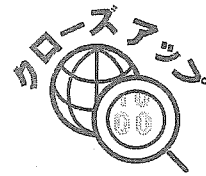
ユーチューブで配信した記念講演は「超人口減少時代、今こそ求められる建築士の『議論』と『問題提起』」魅力ある豊かなまち空間再編に向けて」と題した。

藤本氏は冒頭、人口減少に少子高齢化が重なり、いずれまち全体の総合的な空間再編が本格的に始まるという現状認識を示した。その上で、若い世代にも住み続けたいと思われ魅力ある街へと空間再生するという目標に向け、地元住民や行政、専門家と交えた幅広い議論の必要を訴えた。

士会連合会 藤本名誉会長が「建築士の日」記念講演



まちの再生については、自身が主導した山口県宇部市での中心市街地再生事業を振り返りつつ、衰退期にあるまちの再生は、中心商店街の活性化などの商業的な議論だけでは課題を解決できない」と指摘。住環境や空間デザインなども含む多様な観点に立った「総合



合的取り組みが必要だ」とし、具体的な議論に向けては住民、行政、各分野の専門家などが共有できる理念の重要性を主張した。

その上で藤本氏は、自身の経験を踏まえた「大地性の復権」の理念を提起した。「建築と環境にとつての場は、地球上にその1カ所しかない固有の場であり、大地だ」とし、「固有の風土・文化的条件に徹底的にこだわることで、地域にふさわしい建築と環境のあり様をイメージする」と理念に込めた意味を説明した。

具体的な市街地再生では、地域の課題を解決する「計画論」と「空間論」それらを実現するものとして行政の制度利用などを含めた「事業論」の三つを示し、各論を「大地性の復権」の理念でつなげ、地域固有の特徴を捉えたまちの実現を目指す総合的な市街地再生を提唱した。

講演後半では、自身の体験を踏まえた仮説的な論点として、▽まちとまち都市デザインの実現▽多様なスモールコミュニティへの再構築▽オープン・コモンスペースの創出▽新たな「まち空間再編事業手法」の提起▽これまでの「住宅政策」の抜本的見直し

屋外空間考える視点不可欠

地域固有の特徴とらえたまちを実現



藤本氏が手掛けた美奈吉ランドスケープ「茨城県水戸六番池田」

の五つを提起。

中でも、まっとうな都市デザインの表現については、「最近の都市開発の状況を見ては日本全体でちゃんと言語化しなければならぬテーマだ」と最も重要視した。

藤本氏は「都市デザインとは、都市生活を支える屋外空間について考え、総合的な演出を図ることだ。まちの空間再編を議論するには、この視点からの検証が不可欠だ」と説明する。

より具体的には「都市基盤の上に建築は整備されるが、建築と建築の間には、建築の建たない屋外空間がでる。この屋外空間の質をしっかりと考えなければ、まちの質が本当の意味で良くなるまい」と指摘。

屋外空間を巡っては、建築をはじめ、他の分野も「何となくまち並みをきれ

いにすることも景观を美しくする(中)に終始しがちだ」とし、景观だけではなく、建築物が置かれていない空地と建築との応答の中から生まれる空間の総体の価値を高めることが、豊かな屋外空間につながるという。「建築と建築の間」の場所を、建築を考えるのと同じくらい大事にしよう」という考え方が藤本氏の都市デザイン論だ。

講演ではこのほか、日本の戸建て住宅の強い均質性に疑問を呈し、自身が手掛けた岐阜県高岡市の滝呂団地の事例を通して、基礎計画と連携して宅地多様性をつくる考え方を紹介した。

彫刻家が公園のデザインに加わった別の事例では、「地域の方々の単なるペンチだけれど、ちょっと一味違う。そういう演出をすることで屋外空間をアートフルにした。市民のための空間が味のある豊かな空間になってくれることを目指して仕事をやる。それも総じて言えば都市デザインの一つの役割だ」と語った。

8月にかけて各地でイベント

「建築士の日」は、87年に士会連合会が定めた。2021年からは、各都府県の建築士会に呼び掛けて全国的に企画展開を始めた。今年も6月後半から8月にかけて、各地の士会などが市民に建築に親しんでもらえるさまざまなイベントを実施している。

資源を有効活用した設計・デザインに挑戦

日建設計 夏のリコチャレ

日建設計は8月2日、東京都千代田区の東京本社ビルでワークショップ「資源の有効活用を促進して廃棄物を最小化する設計・デザインに挑戦しよう」を開く。対象

夏のリコチャレ 2023

夏のリコチャレ 2023

夏のリコチャレ 2023

JIA 優秀建築選を募集

日本建築家協会(JIA、佐藤尚巳会長)は、「日本建築家協会優秀建築選2023」の作品募集を開始した。応募作品は8月1日まで受け付ける。100作品を選定した中から、最も優れた作品として「JIA日本建築大賞2023」「JIA優秀建築賞2023」を選出する。

応募資格は、正会員か建築士資格あるいは海外の相当する資格を有する者で、作品の主たる設計者。2020年1月1日から22年12月末日までに国内で竣工した建築作品を募る。審査委員会の審査を通して優秀建築

コンペ&プロ

●東武池袋線池袋駅西口地区再開発事業設計(池袋駅西口地区再開発事業設計) ●池袋駅西口地区再開発事業設計(池袋駅西口地区再開発事業設計) ●池袋駅西口地区再開発事業設計(池袋駅西口地区再開発事業設計)

●東京都市計画政策本部「都営東三田団地事業設計」 ●東京都市計画政策本部「都営東三田団地事業設計」 ●東京都市計画政策本部「都営東三田団地事業設計」